

H27年度 後期研究報告会の開催

去る3月25日(金)、南部総合福祉センター1階ホールにて平成27年度 後期研究報告会を開催しました。

研究報告会には、島尻教育事務所 宮城末義所長をはじめ、琉球大学 濱田栄作准教授、座安小学校 甲斐英児校長、大里南小学校 井口憲治教頭、北丘小学校 城田モト子教諭の4名の指導講師、多くの関係者をご臨席いただき、6ヶ月間の研究の成果を熱心に聞いて下さいました。

報告会は、自分自身の課題を解決するためにどのような指導工夫を行ったのか、子どもたちにどのような力を身につけさせたのか、の2つのことを究めたものであり、プレゼンテーションの仕方を工夫し、成果と手立てを分かりやすく提示しました。後日、報告書は、HPに掲載します。

会場には、検証授業等で作成した教材やワークシート、検証保育の写真や子ども達の作品等を展示しました。

琉球大学教育学部の学生、沖縄女子短期大学の学生、各学校の職員、総勢72名の皆さんの参加がありました。ありがとうございました。

研究テーマ一覧

	発表者	研究領域及び研究テーマ
1	比嘉頼子 豊見城市立長嶺小学校	〈小学校 道徳〉 児童が主体的に取り組み、自らの考えを深める道徳授業 ～心に響く教材の開発・活用と意見交流の場の設定を通して～
2	久高友弥 与那原町立与那原東小学校	〈小学校 国語〉 自分の考えを広げたり・深めたりする学習指導の工夫 ～「読むこと」における単元を貫く言語活動を通して～
3	富名腰由紀 八重瀬町立東風平小学校	〈小学校 算数〉 数学的な思考力・表現力をはぐくむ指導の工夫 ～互いの考えを伝え合う協働的な学習活動を通して～
4	国吉亜矢 南風原町立北丘幼稚園	〈幼稚園教育〉 幼児が協同して遊ぶようになるための環境構成と援助の工夫 ～思いを伝え合い友達とかかわる遊びを通して～
5	波照間生子 南城市立大里中学校	〈中学校 理科〉 科学的な思考力・表現力を高める指導方法の工夫 ～教材・教具を活かした問題解決学習を通して～
6	伊波ますみ 豊見城市立豊見城中学校	〈適応指導教室〉 学校復帰へ向けたよりよい支援の在り方 ～子ども理解と多様な活動を通して～



写真1 報告会の様子



写真2 報告の一場面



写真3 会場の展示物

参加者の感想 (アンケートから)

○不思議な自動販売機は子供の発想で楽しみながら作っている様子が思い浮かびました。子供に寄り添った保育の展開が良かったです。実践に活かしていきたいと思います。(幼稚園教諭)

○研究の成果を最初に示して、その後、研究の発表とするスタイルは、興味をひかれました。6ヶ月間の研究を15分間でパフォーマンスしなければならないのですが、発表者全員が堂々とした態度での報告だったので、一番、発表者自身が満足していると思います。現場に戻って、研究の良さを職員へ周知するために、積極的な授業公開をしてほしいと強く願っています。(小学校教諭)

○島尻教育研究所の特色があり、大変素晴らしい報告会でした。適応指導教室の発表も大変良かったと思います。今後も継続できる体制を整えてほしいと思います。(中学校教諭)

○全ての発表が現場の先生方だからこそ出来ることであり、気付くことが多くあり、勉強になることだらけでした。活かせそうな事は、どんどん吸収していきたいと思いました。(大学生)

研究員の感想 (研修日誌から)

どの研究員も自信をもって報告していたと思います。みんなが自分だけでなく、互いの報告を良い物にしようと示唆や助言をし、互いに高め合ってきた成果だと思います。私は昨日までは緊張していましたが、今日は楽しんで発表する事が出来ました。不安を残さず計画通りに準備し何度も練習を重ねたおかげだと思います。会場であなづいてくれている人の顔を見ると、現場で活かせる実践になっていたんだなと安心しました。また、報告会では忙しい中教育長や園長先生の出席もあり、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。(国吉亜矢)

報告会のプレゼンの途中、会場に来て下さった方々の顔を見ると、一生懸命私の話に耳を傾け、真剣な表情でスクリーンを見ていました。私は嬉しくなって、発表が楽しいとさえ感じました。私の発表が終わるとシーサー会のメンバーの番です。私は、心の中でみんながんばってと応援しました。みんなも上手に発表していて誇らしくなりました。質疑応答では、2つも質問がきてとても嬉しかったです。今まで頑張ってきたことを全て出し切ることができた報告会でした。(比嘉頼子)

いよいよ本番の報告会でした。大学教授に「単元を貫く言語活動」のメリットとデメリットについて質問されました。一番のメリットはやはり、子どもが一つ一つの言語活動に意味があることに気づき、主体的な学習になることだと思います。僕自身、小学校時代に何で意味もわかるのにいちいち細かく読みとりをするのだろうと考えたり、初発の感想を書いたり段落分けなどがとてもいやでした。でも〇〇のために一つ一つの活動をしていく、そのためにこんな学習計画ですというのが分かっていたら、何となくすっきりして学習に取り組んだと思います。ただ、単元のねらいをよりよく達成するための発問や読解など研究をしてみてもまだ勉強不足だと実感することもできました。(久高友弥)

程よい緊張の中、報告会が始まりました。思っていたよりもたくさんの方々が参観して下さりびっくりしました。自分の番が近づいてくるにつれ、緊張はピークになりました。後方にチーム東風平のメンバーが大勢駆けつけてくれていて感動しました。チームシーサーと上原所長や羽根田主任の顔を見て安心してプレゼンテーションができました。質疑応答では、グループ編成の仕方や数直線の活用について質問があり、応えることができたので良かったです。(富名腰由紀)

報告会でしっかり研究の内容を報告することができました。たくさんの参加者の前に立つと緊張して途中なにを話していいのか分からなくなっている自分でしたが、教材の簡易屈折計の説明はしっかり伝わるように話せたと思います。

指導講師の濱田先生や大里中学校の諸見里校長先生、私の代わりに祐先生も見に来てくれて、本当に多くの方に応援してもらっていることを実感しました。(波照間生子)

1年間の研究内容を報告する機会を与えていただいたことに感謝しています。適応指導教室運営や通級児童生徒の様子を多くの人に理解していただき、今後も温かく見守っていただけるとお願いいたします。本当にありがとうございました。(伊波ますみ)